

国語

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
国語	国語探究A	2	2年次・D2群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
高校生のための愛媛の文学 改訂版		基礎古典 新装版		2年次選択履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
愛媛県にまつわる古典文学を学び、愛媛県の社会の担い手としての自覚を深め、先人のものの見方、感じ方に興味を持つとともに、言語活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能について、その特質を理解し適切に使う力を身に付ける。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、愛媛の古典文学などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、愛媛県民として言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	1	地名の起こり 「『伊予』と『愛媛』」 「越智郡」	4 5 6	・身近な地名の由来を読んで、古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。 ・伊予、愛媛という地名はどのようにしてできたのか、なぜその地名となったのかを理解する。	1 2 2 3
		2	伊予の湯をめぐる 「伊予の温泉の起こり」 「熟田津の歌」	7	・道後温泉の由来を知り、先人の知恵と現在まで発展した理由を考え、理解する。	1 2 1 3
	2 学 期	3	戦乱の世に 「伊予の国での源平合戦」 「大森彦七が事」	9 10 11	・平家物語や太平記等の中にも身近な地での出来事があるのを知るとともに、その時代の地元がどのような所であるかを想像する。	1 2 2 3
		4	各地に残る不思議 「雨乞いの唄」 「伊予国矢野保の黒島のねずみ」	12	・愛媛県各地につたわる説話、寓話を学び、その話のおもしろさを理解する。	1 3 1 2
	3 学 期	5	人生がかわるとき 「作法と不作法」 「狩人の発心」 「武左衛門一揆」	1 2 3	・愛媛県各地での中世日本人のものの見方・考え方を味わう。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を理解する。	1 2 2 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○定期考査等では、事実に知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを取りながら評価する。 ○課題や提出物の状況を評価に取り入れる。 ○実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることを期し、技能もはかる多様な評価を目指す。		○定期考査等では、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身に付いているかをはかることに注力する。 ○論述やレポート等、多彩な表現活動を評価に取り入れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているかをはかる。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・定期考査 ・小テスト ・提出物		・定期考査 ・授業中の活動 ・感想文など	・授業中の活動 ・感想文など ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と学期末の評価を行い評価する。		
	学習上の留意点	・小テストの勉強や課題プリントなど、家庭学習をしっかりと授業に臨むこと。 ・ノートや問題集など、提出物は期限を必ず守ること。			